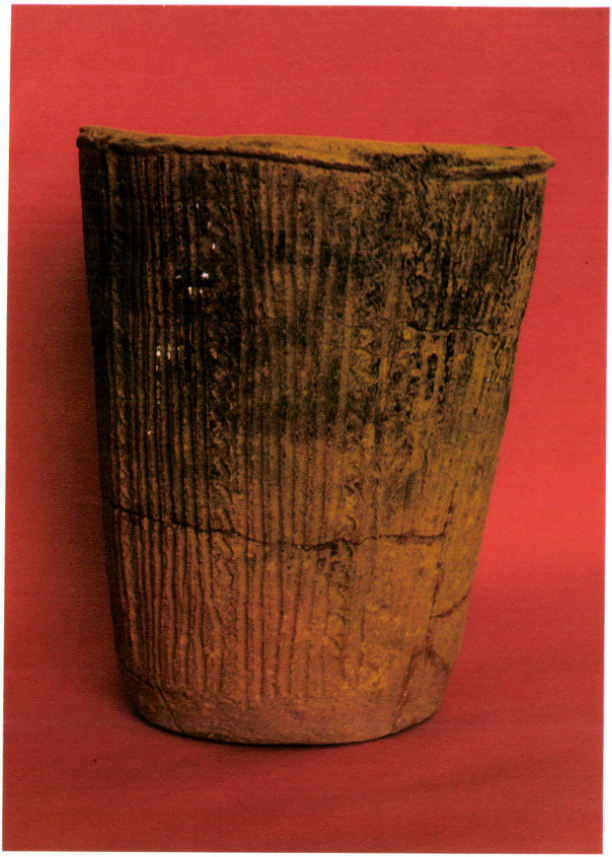
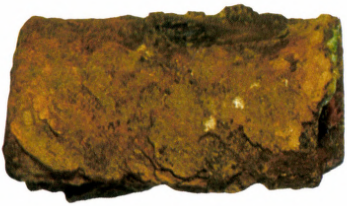
矢吹町史

第1巻　通史編

バックブレイド　（ナイフ型石器）
長さ11.0cm　陣ガ岡出土　須賀川市立博物館蔵



縄文式土器　陣ヶ岡出土　須賀川市立博物館蔵



刀子類　鬼穴古墳出土
矢吹町教育委員会蔵

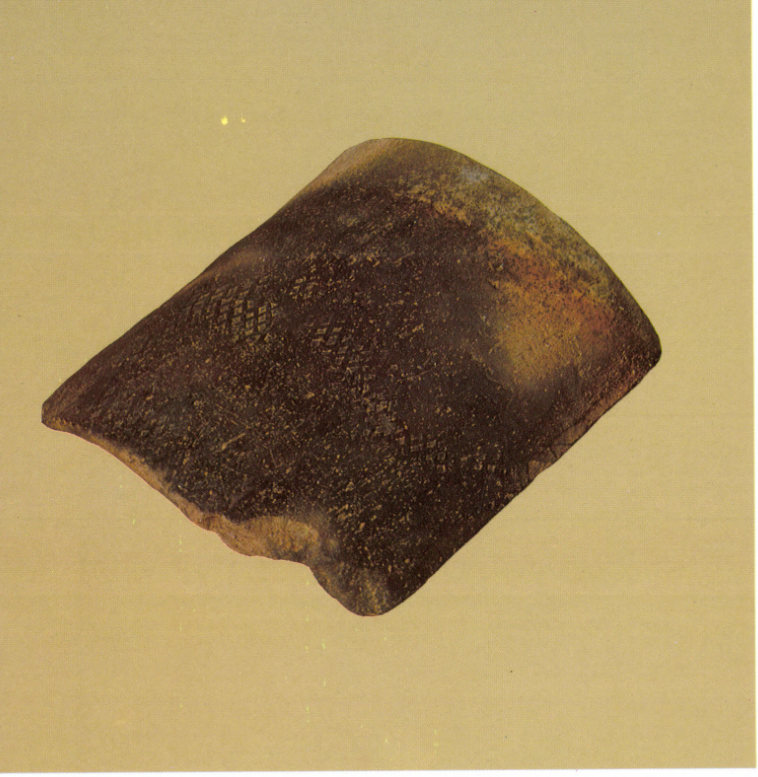
切　羽　長径 5.2cm
鬼穴古墳出土
矢吹町教育委員会蔵

金　環
谷中古墳出土
矢吹町教育委員会蔵

土製勾玉
大熊森出土
矢吹町教育委員会蔵

石製勾玉
大隈出土
小針頼晴蔵

土器師　墨書銘申壬　太子堂遺跡出土　矢吹町教育委員会蔵

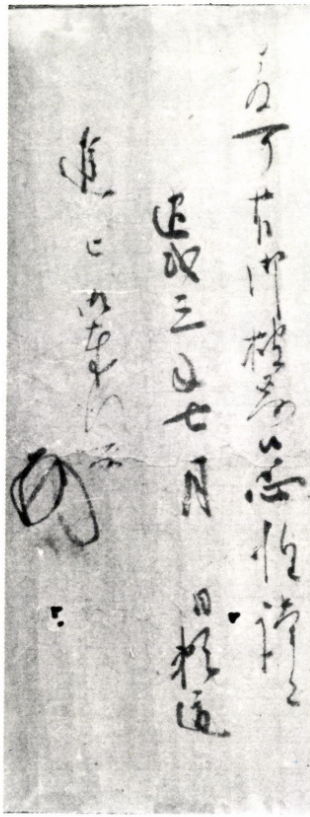


布目瓦

かに沢遺跡出土　矢吹町教育委員会蔵

矢吹　袖ガ館

矢吹館沢地内



建武3年7月　石河義光若党屋葺頼道軍忠状
角田石川文書（安藤重雄撮影）

谷文晁「写生帖」　須乗原

須賀川ハ川 驛右ニ二階堂遺
平古城跡平城し
長禄寺門外ノ杉の前石ハ
往昔城代時大手跡と云
長禄寺ハ長禄年中剣
造而后名ぐく存り
驛東愛宕山あり 憲張由墓 此末
古戦場とく二階堂元
天正の比正宗のため亡さる
今長禄寺西畑中古墓
公階堂家代々墓あり
釋迦堂川 古名岩瀬川
岩瀬森 鎮足明神社 神主三嶋氏
陸奥岩瀬の森の… 紅葉貝之
ゆかり一聲…初郭公
雲水峯 東六里拝往 昔田村公居城
の不星ヶ城し
大多喜岩峯 是ヨ 鬼ヶ岩屋
洞中空闊
数千丈

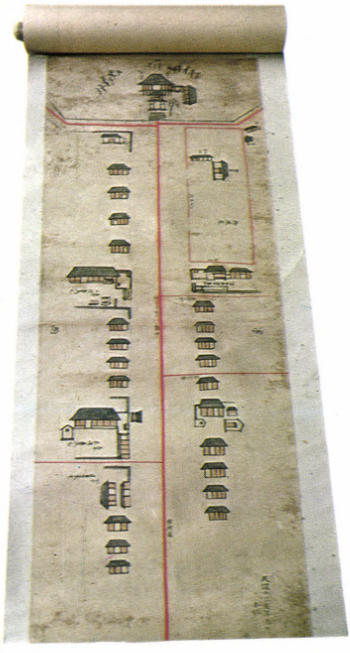
阿弥陀如来像　伊藤光之祐藏

甲　冑
中野目・円谷善人家蔵

庄屋家屋　中畑・岡崎長成家

松平萬太郎康直像
（中畑陣屋領主外国奉行）
ベルリンで撮影
兵庫県佐月町平福石州神社蔵

旗本領中畑陣屋附近図
中畑　小針頼晴蔵



磨崖仏三十三観音像

矢吹町八幡

異国風景絵馬

嘉永５年　60×80cm
明神観音堂蔵

根宿三匹獅子舞獅子頭

根宿区有

昭和10年 矢吹町の中心街　白河市　荒井寿夫蔵

昭和50年 矢吹町の中心街　矢吹町役場蔵

上空よりの矢吹インターチェンジ

小学校敷地の景観

町造成工業団地風景

三神地区圃場整備後の風景

矢吹町中町の街風景　昭和55年３月17日

『矢吹町史』完結にあたって

矢吹町町長　仲西藤次

さきに、町村合併二十周年、町制七十五周年を記念して、『目で見る矢吹町史』に、引きつづいて『矢吹町史』第二、三、四巻を発行いたしましたところ、幸いにも各界の御好評をいただきましたが、今回、通史編第一巻ができあがり、これをもって、一応の完結を見ることができました。

その内容は、親しみやすく平易な「目で見る町史」から、万余を数える資料の中から精選された「資料編」と、知性とすぐれた史眼を結集して描かれた「通史編」の全五巻とでなり、わが矢吹町の歴史を解明するものであると信じます。

ぜひ、ご家庭で全巻常備され、広く愛読されますなかから、そのことを通して、話し合いが生まれ、矢吹町の発展が創造的に継承されてゆくならば、編さん事業を行ったものにとって大へん喜ばしい限りです。

この間、監修者の福島大学小林清治教授をはじめ、町史編さん事業にかかわられた多数の編さん委員、専門委員、事務担当者、資料提供者の方々に、また、遺跡の発掘調査や文書等調査収集によろこんでご協力くだされた方々、この大事業にご理解とご協力くだされた町民の皆様に心から厚くお礼申しあげる次第であります。

昭和五十五年三月

発刊のことば

矢吹町史編纂委員長
矢吹町教育委員会教育長　酒井正敏

一町二カ村の合併二十周年を記念して町史編纂が計画されました昭和四十八年一月から、編纂委員会が発足されまして以来七年間の長い間には幾多の困難がございましたが、数多くの人々と多くの資料によりまして、当初の予定よりも多彩で立派な矢吹町史を発行する事が出来ました。『目で見る矢吹町史』、第2巻、第3巻、第4巻の古代から現代までの資料編は矢吹町の人々ばかりでなく他町村、又は広く県外にも重要な参考資料として役立つ事と思っております。今回は最後の予定でございます総集編として「通史編」が刊行されました事は喜ばしい限りでございます。この長い間、又非常にむずかしい仕事に最後まで御尽力下さいました多くの人々と、貴重な資料をお貸し下さいました方々には心から御礼申し上げます。又永年の間編纂委員として御協力下さいました委員の皆様、専門委員の先生方、編纂室で直接編纂に当られ、こつこつと仕事をされた方々に心から感謝致しますと共に喜びあいたいと思います。

この町史によりまして、我々は祖先の成し遂げた数々を偲び、良き模範として我々の中にとり入れ発展させ、住みよい郷土にするため頑張ろうではありませんか。

町史編纂の終結に当り、我々が次代に残す大きな贈り物を前にして感激に耐えません。

昭和五十五年三月

矢吹町史の発刊を祝して

矢吹町議会議長　近藤毅一

町政施行七十五周年、町村（旧矢吹町、中畑村、三神村、広戸村柿之内地区）合併二十周年を記念して、矢吹町史編さん事業が昭和四十八年より着手され、このたびこの一大事業である『矢吹町史』が、多くの関係者ならびに町民各位のご協力により発刊されるにあたり、一言お祝いの言葉を申しあげます。

今日の緑豊かな田園の町「矢吹町」発展のかげには、私達の先人がたゆまぬ努力と創意によって拓き築きあげてきた歴史と遺産のたまものであることを忘れてはなりません。

しかし近年激しく変化する社会情勢とともに、先人の築いた貴重な文化遺産も破壊もしくは散逸しようとしておりますとき、その歴史の先端から現在に至るまでの輝かしい足跡を辿り、その史実を『矢吹町史』として後世に伝える文化遺産として記録に残そうとすることは誠に意義深く喜ばしい限りであります。

「古きをたずね新しきを知る」と古人は教えています。この矢吹町史が物語る歴史の一頁一頁が広く町民に理解され、そしてわが郷土を正しく知ることは、郷土愛の高揚につながり、さらには未来への指標になるものと信じます。

おわりに、本史の編さん、発行にご尽力されました関係者の皆様方に対しまして、心から敬意と感謝の意を表しましてお祝いの言葉といたします。

一九八〇年三月

序

監修・町史専門委員
福島大学教授文学博士　小林清治

この第一巻の刊行によって、『矢吹町史』全四巻が完結することになった。

本町史は、第一巻通史、第二巻資料編Ⅰ（原始、古代、中世、近世）、第三巻資料編Ⅱ（近世、近代）、第四巻資料編Ⅲ（近代、現代）から構成される。第一巻通史は、わかりやすく具体的に矢吹町の歴史を叙述することにつとめ、第二巻以下の資料編は、通史の叙述の根拠となる資料を掲載し、理解の助けとして個別解説および全体解説を付した。町民に親しみ読まれると共に、町内外の人々の研究にも役立つことを願ったためである。

当初の計画は三巻構成であったが、その後一巻を増加して、量質ともに充実した町史が出来上った。福島県南の地にあって、着実な営みを続けてきた祖先のたゆまぬ歩みは、本町史によって明らかにされたと考える。

それは、編纂委員同専門委員および直接の掌に当たった編纂室の御努力と協力の成果である。深い御理解のもとに事業を推進された町当局と、さらに資料調査はじめ万般にわたる御援助をいただいた町民の方がたに、あつく御礼を申しあげたい。

町史の完成を契機として、矢吹町の歴史の研究がさらに深められ、また矢吹町が一層の発展をとげることを心から祈念する。

一九八〇年三月

目次

口絵

『矢吹町史』完結にあたって　矢吹町長　仲西藤次

発刊のことば　矢吹町史編纂委員長　酒井正敏

『矢吹町史』の発行を祝して　矢吹町議会議長　近藤毅一

序　監修／福島大学教授　小林清治

凡例

第一編　矢吹町の自然……3

概説……5

第一章　気候……7

一　気温……7

二　降水量……10

三　風……13

第二章　矢吹町の地形と地質……14

一　矢吹町の地形……14

二　矢吹町の地質……16
第三章　植　物……24
一　現存の植生……25
二　天然記念物・古木・その他……36
付・矢吹町の植物目録……41
第四章　動　物……47
一　哺乳類……48
二　鳥　類……48
三　爬虫類……50
四　両棲類……51
五　魚　類……51
六　節足動物・昆虫類……52
七　アメリカシロヒトリ……58
八　アメリカザリガニ……59
第二編　原　始……61
概　説……63
第一章　旧石器時代……65

一　人類の出現……65
二　矢吹町出土の旧石器……67
三　旧石器時代の生活……68
第二章　縄文時代……70
一　縄文文化の特質……70
二　縄文時代の遺跡と生活……77
第三章　弥生時代……91
一　弥生時代の概観……91
二　弥生時代の遺跡と生活……95
第三編　古　代……103
概　説……105
第一章　豪族の誕生と古墳……107
一　古墳時代の概観……107
二　古墳と集落……110
第二章　律令政治下の矢吹……141
一　白河国の設置と矢吹……141
二　白河郡と矢吹のむら……144

三　律令時代の主な遺跡……152
第三章　平安期の矢吹……164
一　前九年の役と矢吹……164
二　石川氏の来住と矢吹……168
三　地名の伝説……176
第四章　古代の寺社……178
一　式内社……178
二　寺　院……181
第四編　中　世……183
概　説……185
第一章　鎌倉期の矢吹地方……186
一　「平泉征討」と石川氏……186
二　石川・結城支配下の矢吹地方……189
第二章　南北朝の動乱……195
一　建武新政から動乱へ……195
二　南北両党抗争と矢吹地方……201

第三章　室町・戦国期の矢吹……208
一　室町時代の矢吹……208
二　伊達氏の支配と矢吹……218
三　矢吹の武将たち……227
四　中世の結末……236
第四章　矢吹の城館……238
一　矢吹の城館跡……238
二　城館の考察……249
第五章　中世の文化と信仰……251
一　鎌倉仏教文化……251
二　矢吹の石造供養塔婆……255
第五編　近　世……265
概　説……267
第一章　幕藩制社会の成立と矢吹……269
一　会津領時代の矢吹……269
二　白河藩の成立と矢吹……288

第二章　幕藩制の確立と展開……316
一　白河藩の支配と矢吹……316
二　村の生活……353
第三章　幕藩体制の動揺と崩壊……383
一　支配の変遷と村・町……383
二　天明・天保の大飢饉と農民……433
三　寛延以降の農民の一揆・訴願……451
四　阿武隈川通船……476
五　戊辰戦争と矢吹……486
第四章　近世の文化と信仰……505
一　文　化……505
二　信　仰……514
第六編　近　代……523
概　説……525
第一章　明治期の矢吹……530
一　明治維新と行政の変遷……530
二　三新法による行政の変化……557

三　自由民権運動……567
四　町村制施行と矢吹の村々……576
五　租税制度の変遷……586
六　矢吹ヶ原と農業……598
七　日清・日露戦争と生活……637
八　交通・通信の発達と生活の変化……655
第二章　大正期の矢吹……677
一　大正期の行政……677
二　産業経済の発達……701
第三章　戦時下の矢吹……725
一　恐慌下の矢吹……725
二　満州事変と軍国主義の進行……738
三　日中戦争と戦時体制……785
四　太平洋戦争と統制の強化……795
第四章　教育と文化活動……803
一　教育の普及……803
二　大正期の教育……813
三　戦時体制下の教育……834

四　文化活動……851
五　スポーツ……871
第七編　現　代……883
概　説……885
第一章　戦後の復興……888
一　敗戦の混乱と生活……888
二　地方自治の出発……906
三　農地改革……920
四　農村の復興と農協運動……932
第二章　ゆたかな町づくりへの出発……965
一　町村合併……965
二　新矢吹町の建設……979
第三章　発展する矢吹町……1000
一　農業の発展と農村の変化……1000
二　道路交通網の整備……1024
三　生活の向上と町づくりの展開……1033
第四章　現代の教育と文化……1058

一　学校教育……1058
二　福島農業経営大学校……1103
三　社会教育……1108
四　文化活動とスポーツ……1125
編集後記
資料提供および協力者
矢吹町編纂関係者
付　別冊矢吹町史のしおり

題字／矢吹町長　仲西藤次
装幀／町史専門委員　宗像喜代次

凡例

一、「矢吹町史」は第1巻通史編、第2、3、4巻資料編の四巻により構成される。この第1巻通史編は、第一編矢吹町の自然、第二編原始、第三編古代、第四編中世、第五編近世、第六編近代、第七編現代をその内容とした。

二、第一編矢吹町の自然は、矢吹町の気候・地形・地質・植生・動物などについて叙述し、私たちの生活の基盤を明らかにした。

三、第二編原始は、旧石器時代の人類の成立から弥生期までの生活を遺跡、遺物により解明した。

四、第三編古代は、古墳期から平安期までをその内容とした。第四編中世は、鎌倉期の石川、結城両氏の支配下から、天正十八年（一五九〇）の豊臣秀吉の奥羽位置までを取り扱った。

五、第五編近世は、天正十八年蒲生氏郷の支配から慶応四年（一八六八）戊辰戦争までを原則として扱った。第六編近代は明治初年から昭和二十年八月十五日までとし、第七編現代は、昭和二十年八月十五日以後、昭和五十年を一応のめやすとして叙述した。

六、本巻執筆にかかわる史資料の大部分は、第2巻、第3巻、第4巻の資料編Ⅰ・Ⅱ・Ⅲに収録したもので、第2巻資料編Ⅰ3編資料番号六四の場合は（『矢吹町史』2巻 資料編Ⅰ3―六四）という形で示した。『福島県史』など他の出版物からの引用参考は『　』とその巻数、頁などをおおむね記した。『矢吹町史』資料編に収録されていない史資料については、所蔵者名、資料名などを（　）内に注記した。

七、用字用語は、当用漢字・現代かなづかいを原則としたが、引用文や歴史的用語、さらに必要と思われるものについては原則によらない場合もある。

八、本文中の敬称はすべて省略した。

九、写真は、町史編纂室が他の協力を得て作成したが、町企画広報課広報係、町内外の方々が所蔵するものを複写したものもある。

十、図表は、執筆者が作成し出典を明示した。

十一、引用文は「　」、または活字を小さくして収め、出典を明示した。

十二、本巻の執筆・編集にあたり、町内外の多くの方々や関係機関にご協力いただいた。関係者名とともに巻末に記して謝意を表する。

十三、本巻の執筆者は、執筆章・節の末尾に掲示した。

十四、本巻の監修、校閲は編纂専門委員・福島大学教授小林清治があたった。